



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	Study on Safe Vegetable Supply Chain of Supermarkets in Vietnam [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	Nguyen, Thi Kim Oanh
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(農学)
Dissertation Number	甲第14156号
Issue Date	2020-06-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/78919
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	Nguyen_Thi_Kim_Oanh_abstract.pdf, 論文内容の要旨



学 位 論 文 内 容 の 要 旨

博士の専攻分野の名称 博 士 (農学)

氏名 Nguyen Thi Kim Oanh

学 位 論 文 題 名

Study on Safe Vegetable Supply Chain of Supermarkets in Vietnam
(ベトナムのスーパーマーケットによる安全野菜のサプライチェーンに関する研究)

経済発展に伴って、ベトナムの消費者の間でも徐々に食品の安全性についての関心が高まってきたおり、その焦点のひとつである野菜について、中央政府が「安全野菜」という包括的な概念を導入し、その普及に力を注いできた。他方、現実の流通の中ではスーパーマーケットが国内資本および外国資本によって徐々に展開され始めており、これまでの伝統的な小売市場主体の野菜流通においても一定の地位を占めるまでになっている。そして、スーパーマーケットは食品の品質ならびに安全性の向上を、伝統的市場との競争における有力な差別化の手段として位置付けており、安全野菜はその戦略的な商品のひとつとして位置付けられている。したがって、スーパーマーケットは安全野菜の流通において重要な役割を果たしていると考えられるのである。

本論文の課題はベトナムのこうした状況の下、スーパーマーケットによる安全野菜のサプライチェーン、すなわち生産から流通を含めた調達経路の構築過程を明らかにすることである。課題にアプローチするため、以下の4章が分析に充てられた。明らかにした内容は以下の通りである。

第1章では、ベトナムの野菜市場において普及している安全野菜の主要な認証基準が RAT (ベトナム語の Rau An Toan の頭文字)、VietGAP および有機栽培の3種類であること、認証導入の難易度は RAT が最も容易であり、VietGAP が中位、有機栽培が上位(導入が難しい)ことを整理した。

第2章では、安全野菜の流通経路が伝統的な小売部門と、スーパーマーケットが主導的地位を占める近代的な小売部門とで大きく異なっていること、前者では主に RAT が扱われるのに対し、後者では RAT のみならず VietGAP や有機栽培にもとづく野菜が流通していることを明らかにした。さらに、スーパーマーケットの安全野菜サプライチェーンは国内資本と外国資本によって異なっており、国内資本のスーパーマーケットチェーンでは主に VietGAP 認証の野菜を自社農場や産地の農協から直接調達していることが多いのに対し、外国資本のスーパーマーケットチェーンでは RAT が主であり、商人を利用した間接的な調達となっていること、後者(外国資本のチェーン)でも、厳格な品質管理によって野菜の品質と安全性は確保されていることを明らかにしている。

第3章では、安全野菜の認証を受けている流通組織の性格によつて、その流通経路が異なっていることを分析している。農協のうち、計画経済時代の合作社の性格を残している旧型農協は主に RAT を扱い、これを商人に対して販売しており、認証システムに対してあまり満足していない。これに対して、市場経済に適応する形で登場した新型農協は VietGAP 認証野菜を中心に取り扱い、これを近代的な小売業者(スーパーマーケット)に直接販売、もしくは VinEco(国内資本のスーパーマーケットチェーンによる自社農場運営会社)へ供給するという直接的な流通システムを採用する傾向が強い。このように、新型農協は安全野菜の認証制度をよく理解しており、同制度への

満足度も高かった。さらに、比較的大規模な農場およびスーパーマーケットの直営農場は VietGAP や有機栽培の野菜をより重点的に取り扱っており、短い流通経路でスーパーマーケットに供給している。このように、流通組織・経営体によって扱う野菜と採用する流通経路が異なっており、難易度の低い RAT を扱う流通組織は従来型の長い流通経路を、VietGAP や有機栽培の野菜を扱う流通組織。経営体はより短い流通経路を採用する傾向があることを明らかにした。

第4章では、スーパーマーケットに安全野菜を供給する商業会社(商社)を対象に分析を行い、その調達において、農協など特定の相手から購入するようになっていることを明らかにした。このうち、自社農場を開設して VietGAP 認証の野菜を調達する商社は、よりスーパーマーケットへの供給割合が高く、逆に、RAT を農協などから調達している商社はスーパーマーケットへの供給割合が低い傾向があることを明らかにした。

終章では以上を総括し、次の結論を得た。スーパーマーケットを中心とする安全野菜のサプライチェーンは、より低度な認証である RAT を採用する場合には伝統的な流通経路と類似した長いサプライチェーンとなる傾向がある。これに対して、VietGAP や有機栽培などより高度な認証を用いる場合には、そのサプライチェーンは短くなる傾向がある。それはスーパーマーケットが直接農場や農協から調達する場合のみでなく、商社を利用した調達においても当てはまる。商社は高度な認証に対応する場合、農場を開設して安全野菜を自ら生産することが多いからである。

こうした傾向、すなわち低度な認証野菜ではサプライチェーンが長くなり、高度な認証野菜では同チェーンが短くなる傾向、が生じる要因は、自社生産を含む短いサプライチェーンの場合、野菜の品質と安全性の両面において、より良好な監理とリスクの低減を実現できることにある。したがって、今後ベトナム政府に期待される役割としては、野菜の安全性向上のため、基礎的な認証基準(RAT)のさらなる普及とサプライチェーンに沿った垂直的な調整機能の改善が指摘できることを明らかにした。